

～市民と農業者をつなぐ
武蔵野市農業委員会だより～

むさし



第25号 令和7年11月
編集・発行 武蔵野市農業委員会
〒180-8777 武蔵野市緑町2-2-28
Tel 0422-60-1833 (直通)
Fax 0422-51-9408 (直通)

11月9日(日)は農産物品評会！

in エコreゾート

武蔵野市 農産物品評会

令和7年11月9日(日) 9時～15時
むさしのエコreゾート・広場



脈々と息づく
武蔵野の農業

今年も農産物品評会の季節がやってきました！
何代にもわたって継承される農家の栽培技術を見に
来てみませんか？

日時

令和7年11月9日(日)
午前9時～午後3時

会場

むさしのエコreゾート
(緑町3丁目1番15号)

主な
イベント

- ・ 農産物の展示・即売会
- ・ 宝船・宝分け
- ・ 野菜の詰め放題
- ・ 豚汁の試食 など

詳細は
こちらから
チェック！



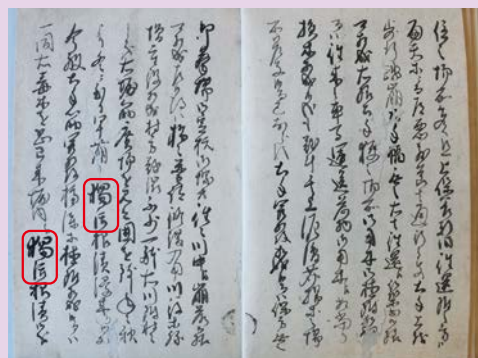
武蔵野の伝統野菜『東京うど(独活)』

「東京うど」は、透き通るような白さが特徴の軟化うどで、実は現在の武蔵野市域(吉祥寺地区)が発祥とされる農産物です。江戸時代から生産されてきたとされており、安政5年(1858)に記された古文書(右)では、すでに関前でうど栽培が行われていたことを示す記述がみられます。現在は吉祥寺を中心に関前や境など8軒の生産者が「東京うど」を栽培しています。

「東京うど」の栽培には手間や時間がとてもかかり、穴蔵や岡室といった特別な栽培施設も必要なことから、生産者が減少しています。しかし武蔵野市にとっては古くから受け継がれてきた、歴史をいまに伝える大切な伝統野菜です。

このような状況を受け、栽培継続を目的とした新たな支援制度を構築するなど、伝統野菜を未来につなぐ取組を武蔵野市としても加速させています。

早春にはまた旬を迎えます。ぜひ武蔵野の旬の味を楽しみながら、生産を応援していただければと思います。



▲千川堀縁漆塗植附二付願上一件(井口家文書)
市指定文化財 武蔵野ふるさと歴史館 蔵



▲高冷地で育つうどの花と穴蔵で育つうど

7月1日開催 夏野菜品評会

既に猛暑の中ではありましたが、今年も北多摩農業改良普及センターの協力をいただき、夏野菜22点の審査が終わりました。

今年は乾燥と湿潤が繰り返され、一般的に生育の遅れや病害の発生等が多かった状況でしたが、虫の被害のないものや色ツヤの綺麗なもの、曲がりがないもの等が、受賞の対象となりました。市場でも有利に取引されるような品質の良いものもたくさんあったとのことでした。

表彰には至らなかったものの、甲乙つけがたいほど審査が難しかったという講評もありました。



井口さんは
2年連続
市長賞受賞！



武蔵野市長賞	井口 義一 (関前)	トマト
武蔵野市 農業委員会会長賞	高橋 嘉晴 (境西部)	エダマメ
東京むさし 農業協同組合長賞	田中 博崇 (吉祥寺)	ナス
武蔵野市議会 議長賞	櫻井 敏史 (関前)	トウモロコシ
武蔵野商工会議所 会頭賞	田中 博崇 (吉祥寺)	キュウリ

(敬称略)

地場産農産物を楽しんで ～給食部会の新しいチャレンジ～



▲収穫したものを学校給食へ



▲給食用に大量に生産中



▲今後の展望について意見交換

武蔵野市学校給食部会では、タマネギ・人参・ジャガイモなどの給食で需要が大きい作物ごとに専門の担当を置いて、出荷体系の効率化を図る取組を始めました。

これまでは、各部会員が様々な品目を栽培していましたが、一つの品目に専念することにより、出荷作業の省力化や時間の短縮ができるので、給食への出荷率を向上させることが可能になります。

他にも、春に収穫した農産物を3か月から半年程貯蔵し、秋に出荷するといった、端境期の需要に対応できる品種の模索や、九州のような暑い気候の地域のジャガイモの品種を使用してみる等の工夫を行い、安定した農産物の供給ができるよう、日々の研究も行っています。

昨年度に比べて、キャベツ・人参等の生産は右肩上がり。小中学生の皆さんに地場産農産物を楽しんでもらいたいという気持ちで部会員一同頑張っています。

直売所にお伺いしてみました！



境4丁目のTさん。ご夫婦で野菜全般を露地で栽培・販売しています。

夏の味覚枝豆は行列ができるほど好評、秋には渋柿を販売。

渋柿の販売と聞くと一見違和感がありますが、購入者は自ら「干し柿」を作るのを毎年楽しみにされているとのこと。

Tさん宅では、夏の代表キュウリは栽培しないそうです。これには由来があり、キュウリを輪切りにした断面が八坂神社の御神紋と似ているため、恐れ多いと代々栽培を遠慮してきたそうです。

代わりに白ウリを栽培、味わいは淡白で、漬物・炒め物等に利用されるそうです。

関前2丁目の大坂さんは、「畑の土地を大事にする！」という先代からの意思を守り続け、野菜全般の栽培を行ってきました。今では指導農業士の一人として活躍しています。

平成23年にはブルーベリーの苗を植え、3年後から観光農園型の摘み取りを始めました。

ブルーベリーはツツジ科で、花はドウダン（満点星）ツツジに似ているとのこと。

無農薬栽培のため、葉裏に『イラガ』という害虫がつきやすく、開園前に手作業で取っています。

開園日は家族・スタッフ総出で頑張っています。



農業振興基本計画の策定を行っています

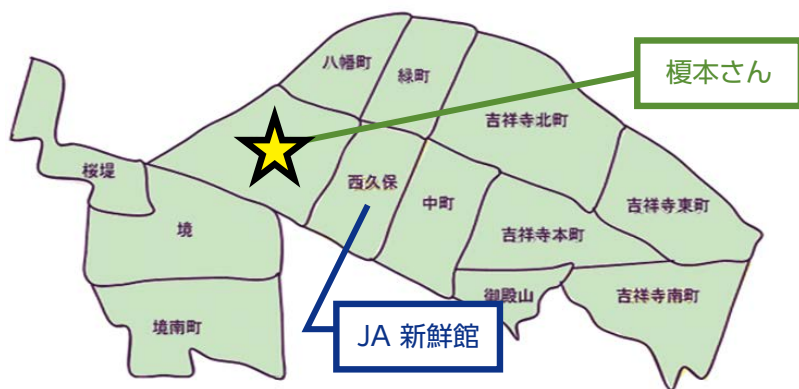


武蔵野市の農業施策は、武蔵野市農業振興基本計画を根幹に実施されています。

現行計画は第3期の計画で平成27年度に策定されたものですが、来年3月に計画期間の満了を迎えるため、計画策定委員会を設置し、次期計画策定に向けた取組を加速させています。同委員会には農業委員会からも委員として参加しています。

策定委員からは、酷暑や温暖化による生産環境や労働環境の変化、資材等高騰に伴う農産物への価格転嫁の難しさをはじめ様々な課題が寄せられています。これらの課題に対しどのように取組んでいくのか、活発な議論が行われているところです。

武蔵野市農業の未来を見据え、真正面から現状に向き合い、検討を続けています。



新しく農業を始めた方を
紹介します



榎本 清美さん（関前2丁目在住）



▲仲睦まじい姿を見せてくださった榎本家。
猫の“ちーちゃん”もその様子を見守ります。

「畑を守っていききたい」と話す母の榮子さんの
想いをつなぐため、清美さんは就農しました。

取材当日は弟の啓太さんと一緒に、新鮮館ヘシソを出荷してきたところ。畑では、ナス、バジル、万願寺とうがらしといった、様々な野菜が栽培されています。

現在、清美さんと啓太さんが主に外での作業、榮子さんが中での作業と、分担をして工夫をされているとのこと。

この暑さなので、清美さんは榮子さんの体調が心配とのことですが、作業を頑張りたいと頑固な一面も。家族一丸となって農業に励んでいる姿が印象的でした。

品評会へ出品するための作物をこれから植え始めるとのことで、意気込みも感じられました。

次期農業委員を募集します

令和8年7月19日をもって、現農業委員の任期が満了となります。それに伴い、同年7月20日から新体制となります。

武蔵野市の農業に関心やご興味のある方は、ぜひご応募ください。任期は３年間です。
詳細は、令和８年３月１日号市報や市ホームページ等でお知らせします（予定）。
女性の方や５０歳未満の方のご応募もお待ちしております。



編集後記

本号では市内2か所の農産物直売所を紹介しました。

市内には 42 の直売所があります。地域住民の皆さんが生産者と直に顔を合わせ、採れたての安心安全な野菜を買い物できる場として、欠かせないものとなっています。

ご近所で見かけることがありましたらお寄りください。お待ちしております。

スマホで
検索

農業委員会
だよりは
こちら↓



直売所
マップは
こちら↓



アンケートは
こちら↓

